できる男性のための介護講座

講師:香川県長寿社会対策課保険者指導グループ課長補佐　門田滋氏

香川大学医学部看護学科 教授　清水裕子氏

日:平成25年2月21日(木)
時:16:00～17:15
会場:香川大学工学部
6号館3階　6301室

増田工学部長からのご挨拶

昨年12月、男女共同参画推進室では男女共同参画推進室の支援利用経験者の方を対象に満足度調査を行いました。その中で特に多かった「男性向けの講座を」との要望を受け、この度工学部において「できる男性のための介護講座」を開催しました。

現在、主たる介護者である男性は全体の3割、男性が変わると介護も変わるのではないか、特に工学部は教員約80名のうち女性は3名ほど。工学部の男性の意識を変えることで介護に対する理解を深めようと、石井教授の力強いお言葉で講座が始まりました。

今回の参加者は合計30名。近い将来介護が必要になるご両親に備えて40代～50代の参加者の方が約7割ほどを占めていました。

まずはじめに、増田工学部長より、ご自身が13年前にくも膜下出血で倒れられたことから「いつ介護される立場になるか分からない。いずれは老老介護になるかもしれないのでこの機会に勉強したいと」ご挨拶がありました。

介護保険制度を中心に高齢者福祉と介護に関する説明が行われました。

続いて門田氏より、介護のポイントについて細かくお話があり、自身が介護しなければいけない状況になったとき、まず慌てず両親の状況や自身の状況を把握することが重要であるとご説明がありました。また、社会資源を利用しながら仕事を続けるコツとして「①抱え込まない」「②任せすぎない」こと。抱え込まずプロに任せることで自分の余裕を持つことができ、任せすぎないことで親子の絆を保てる。子供としてやらなければならない部分は覚悟を決めて介護する。介護者側は、高齢者を尊重することを忘れずに居る必要があるとお話がありました。

高齢者対策事業については「声かけ・見守り事業」で高齢者の閉じこもりを予防し、声かけする側も元気な高齢者が担うことでお互いプラスになる。「居場所づくり事業」では外に交流の場を設ける。「生活支援事業」はお金を使った介護サービスだけでなく、ちょっとした身の回りのことを地域連携で助け合うという、それぞれの状況に合った支援の使い分けについてアドバイスくださいました。

門田氏の説明を医学的に解説される清水先生

医学部清水教授からは、門田氏の説明を医学的に解説してくださり、認知症とは行動の内の動作を少しずつ忘れてしまうので、そこだけ手助けする「ポイントケア」の重要性を細かくご説明くださいました。認知症にはたくさんの種類があり、症状もケアも様々で、介護する側の物の見方を変えなければ実際の介護は難しく、介護の場においては知識や経験は役に立たないと述べられました。その後の質疑応答では、生理的な物忘れと病気的な物忘れの違い、混合性認知症など、参加者に分かりやすくご説明くださいました。講師のお話を聞き「介護とは『知ること』が一番の理解につながる」と強く感じた介護講座でした。